

身体を使った遊びとドラえものの部屋

ブランコ、すべり台、ジャングルジム、トランポリンなど身体を動かす遊びが、子どもたちは好きです。こうした遊びの中で、身体の傾きを感じてバランスをとったり、視線を安定させたり、回転や重力を感じて、脳に信号を送ったりしています。ここにつまづきがあると、姿勢をまっすぐ保てない、視線が定まりにくく人の目を見て話を聞きにくい、集中しにくい…などの様子が見られます。

また、身体の動きをコントロールする感覚があります。自由に身体を動かすための感覚で、身体を動かす時のアクセルとブレーキの役割を果たします。ここにつまづきがあると、細かい動きが苦手だったり、力を調節することができなったり、物にぶつかったり…などが見られます。見て、聞いて、触って、身体を使った遊びをたくさんすると、身体のバランスをとったり、動きをコントロールしたりすることが上手になります。子どもたちが楽しみながら、色々な感覚を感じ、それに合わせて身体を動かすことができるようにするために、ドラえものの部屋（本校A棟1階の図書室横）を、身体を使った遊びができる部屋にしています。小学部から高等部まで、学習時間や休み時間に使用しています。一度、のぞいてみてください。



ドラえものの部屋

～ 感覚遊具の紹介（こあらスウィング と らっこスウィング）～



らっこスウィング

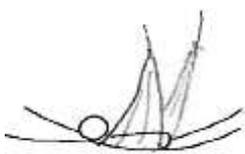


こあらスウィング

昨年度から左の2つの遊具が入っています。

寝る、つかまる、座る等の姿勢で、ゆれたり、回転したりして遊び、筋肉や関節を刺激して、身体バランスや動きのコントロールなどを高めます。子ども自身の“やりたい”気持ちを育てます。

○らっこスウィングの遊び方をいくつか、紹介します。（重量100kgまで）



うつぶせで乗って揺らしてもらったり、前にある大玉にタッチしたりします。



一人で座って乗って、足でマットを蹴って、前後に揺らしたり、回ったりします。



一人で乗るのが不安な場合は、教師が抱っこして一緒に乗って、揺れを楽しみます。

〇こあらすウィングの遊び方をいくつか、紹介します。(重量80kgまで)



腕で抱きついて乗り、足でマットを蹴って揺らしたり、揺れに合わせて大玉を蹴ったりします。



腕で抱きついて、足も曲げてしがみつき、揺らしてもらったり、回してもらったりします。



片手で抱きついて、足でしがみついて、揺れながらボールを投げます。

この他にも、遊び方は色々あります。安全のため、立ち乗りはしないようにしています。おうちでもできる身体を使う遊びが、色々あります。良かったら、やってみてください。

- | | | |
|-------------|---------|---------|
| ・タオルでつなひき | ・手押しずもう | ・しりずもう |
| ・だるまさんがころんだ | ・くまあるき | ・けんけん 等 |

感覚遊びの際、気を付けること

1. 使用前にロープ、アジャスター、カラビナ、の状態を目視や触って安全確認する。
2. 遊具の使用は、床面に低い高さから始め、慣れたら高さを少しずつ上げてOK。
3. 体重制限を守って乗せる。こあらすウィングは80kgまで、らっこウィングは100kgまで。制限体重まで、教師と一緒に乗ったり、子ども2人で乗ったりすることは可能。
4. こあらすウィング、らっこウィングを同時に使用しない。※どちらか片方のみ
5. 回転中心の使用には、回転カラビナが必要。
6. ロープへのぶら下がり、カラビナやアジャスターに手をかけることは危険なので、禁止する。
7. 遊具の使用、教師は目を離さない。遊具の揺れや動きに範囲を想定し、その周りで他児が動かないよう気を付ける。
8. 使用前にトイレを済ませ、できるだけ使用中の失禁を避ける。困ったり、分からなかったりした場合は、支援部または事務室に連絡する。
9. 使用後は、最初の状態に戻し、必ず施錠して事務室のキーボックスに鍵を返す。
※子どもだけで、ドラえものの部屋に行かせない。
10. カラビナを上に向けておく。